

1型糖尿病[1DDDM] レポート2012



**みんなで成功を祝いたい
「治らない」から「治る」をみんなで目指す**

患者、家族、医療者、研究者のみんな
膵臓移植医、膵島移植医、再生医療研究医のみんな
内科医、外科医、研究医のみんな
文部科学省、厚生労働省、経済産業省のみんな
官僚、企業家、政治家、日本国民のみんな
より多くの人々の参加が重要!

理事 松本 慎一



認定特定非営利
活動法人

「治らない」から「治る」へ — 不可能を可能にする — 挑戦

日本1DDDMネットワーク



1型糖尿病[IDDM]レポート2012

目次



新役員 松本慎一メッセージ	1
特集ーその1ー	
日本IDDMネットワーク法人化10周年・1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウム ー 1型糖尿病 2025年『治らない』から『治る』へー	
○講演記録	2
○1型糖尿病「治らない」から「治る」 ー “不可能を可能にする” を応援する100人委員からのメッセージ	19
○ボランティアスタッフの声	22
○NPOにとって、寄付は「共感」のバロメーター	24
○日本IDDMネットワークのファンドレイジングメニュー	25
特集ーその2ー	
JDRF (米国の1型糖尿病研究財団) 視察報告	26
1型糖尿病研究基金による研究助成の実績と成果	31
企業との協働	45
○株式会社バリューボックス	
○カバヤ食品株式会社	
○川崎プロジェクト	
理事長 井上龍夫・副理事長 岩永幸三・専務理事 大村詠一メッセージ	46
平成23年度(2011年度)事業報告	48
平成24年度(2012年度)事業計画	50



新役員 松本 慎一 メッセージ



2012年6月1日より、理事に復帰させていただきました松本慎一です。昨年12月までアメリカテキサス州のベイラー大学病院にて、膵島移植の臨床および研究を行っていました。

2000年にカナダのアルバータ大学が膵島移植によって1型糖尿病患者さんがインスリン注射から離脱したと報告後、膵島移植が世界的に広がり、膵島移植の効果や課題が浮き彫りになりました。膵島分離の技術的難しさや長期の効果の課題は、目覚ましい研究の進歩により解決してきました。この目覚ましい研究の進歩の背景には、アカデミアが実施する臨床研究とそれを支える患者団体であるJuvenile Diabetes Research Foundation (JDRF)の協力があります。患者団体が選ぶ研究は患者に還元できる研究であり、まさに、膵島移植の成績向上はこのような患者視点の研究により進みました。

日本IDDMネットワークは2005年にJDRFに倣って1型糖尿病基金を立ち上げました。この基金によって、日本の1型糖尿病患者さんが自分たちの生活の質を改善する研究を進めることができます。患者さんの生活の質の改善は、患者さん自身のみが体感するもので、研究者にはわかりません。研究者の視点ではなく、患者さんの視点で選ぶ研究こそ、本当に患者さんに還元できるのです。

今回、理事に復帰させていただいて、1型糖尿病基金の強化を行いたいと考えています。JDRFは年間100億円の研究費を研究者に提供しています。少しでもこのレベルに近づけたいと思案を巡らせています。

日本IDDMネットワークが提唱する、「2025年までに1型糖尿病を“治らない”から“治る”疾患にすること」は可能であると信じています。私の未来予想図では、2025年の1型糖尿病は、発症時に患者さんが医者から「この病気は一生治りません」と言われてしまうのではなく、「この病気は、まずはインスリン注射となりますが、いくつかの根治的治療があります。インスリン治療をしながら、どの根治的治療を選ぶか考えてください。」と言ってもらえるのです。根治的治療は、現在の膵島移植の延長線上にある免疫抑制剤不要の膵島移植、ヒト膵臓に頼らないバイオ人工膵島移植などがイメージできます。

If you can imagine it, you can achieve it. 人間想像できることは実現できる。

If you can dream it, you can become it. 夢を持ち続ければ、なりたい自分になれる。

すでにイメージした未来予想図の実現を夢見て日々精進したいと思います。

これからも、よろしくお願ひします。